

# 中空知地域公共交通計画

令和5年6月

中空知地域公共交通活性化協議会

# 目 次

1	はじめに	1
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画の区域	1
(3)	計画の期間	1
2	関係法令、上位・関連計画と本計画の位置付け	2
(1)	関係法令	2
(2)	上位・関連計画	3
(3)	地域公共交通計画の位置付け及び本地域における公共交通の位置付け	14
3	地域の概況	16
(1)	地勢・地理	16
(2)	社会状況	17
(3)	公共交通の現状	24
4	地域の移動特性・ニーズ	47
(1)	本地域を中心とした移動状況	47
(2)	公共交通に係る各種調査結果の整理	49
5	各種調査結果から抽出された課題の整理	81
(1)	中空知地域公共交通ネットワークに係る課題	81
6	基本的な方針及び計画の目標	82
(1)	求められる公共交通の役割及び課題から導き出される将来像・基本方針	82
(2)	公共交通の維持・確保の方針	83
7	目標を達成するための施策・事業	88
(1)	目標に基づく施策	88
8	計画の進捗管理及び管理体制	92
(1)	評価指標の設定	92
(2)	計画の進捗管理体制	94
(3)	評価・検証に向けたPDCAサイクルの構築	95
(4)	今後の協議会の開催スケジュール(案)	96
	付属資料	97

# 1 はじめに

## (1) 計画策定の趣旨

中空知地域は、石狩川と空知川の流域地帯に位置し、肥沃な大地や水資源に恵まれ、国立公園や道立自然公園を有する自然豊かな地域であるとともに、地震や風水害などの災害が少なく、地域内にはＪＲや国道、道央自動車道が接続しており、道央・道北・道東を結ぶ交通の要衝となっています。

かつては産炭地域として多くの人口を抱えていましたが、炭鉱の閉山などにより人口が大きく減少を続けており、直近の令和２（２０２０）年国勢調査による人口は 78,229 人で、前回の平成 27（2015）年国勢調査と比較して、6,438 人の減少となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後も人口減少の傾向は継続し、令和 7（2025）年には 70,616 人となることが予想されています。

高齢者数は年々減少傾向にありますが、これを超える速度で生産年齢人口（15～64 歳人口）の減少が見込まれ、高齢化率は上昇傾向となっており、今後、家族等による自主的な送迎が困難になることが予想されます。

本地域内を運行する公共交通は、札幌や旭川等他地域への広域交通として、鉄道のＪＲ函館本線・根室本線、都市間バスである高速たきかわ号・ふらの号が運行されているほか、通学や通院などを中心とした日常生活に直結した公共交通として、北海道中央バス株式会社及び空知中央バス株式会社が運行する一般バス路線、各市町が独自に運行するバスや乗合タクシーなどの公共交通が運行されています。

しかし、平成 28（2016）年にＪＲ根室本線が北海道旅客鉄道株式会社により「当社単独では維持することが困難な線区」と位置付けられているほか、令和 4（2022）年 9 月末には、利用者の減少や運転手不足などにより、北海道中央バス株式会社の上砂川線及び滝川浦臼線が廃止となるなど、公共交通を巡る状況は厳しさを増しています。

また、慢性的な運転手不足や、新型コロナウイルス感染症の影響による需要回復の遅れなどにより、交通事業者の経営は極めて厳しい状況にあります。

こうした状況を踏まえ、地域住民の生活を支え、持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域公共交通のマスタープランとなる「中空知地域公共交通計画」を策定します。

## (2) 計画の区域

本計画の対象区域は、空知総合振興局管内のうち、中空知 9 市町（芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町、浦臼町及び雨竜町）とします。

## (3) 計画の期間

本計画の計画期間は、令和 5（2023）年度から令和 9（2027）年度の 5 ヶ年とします。